

事務事業名		子ども芸術鑑賞事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	4 豊かな心を育む教育・文化づくり					担当組織	担当部	産業文化部	担当課	文化振興課
	政策	2 生涯にわたり学びのあるまちづくり					担当係	文化振興係	担当課長名	浅野良一	
	施策	2 歴史・文化資源の継承と芸術・文化活動の推進					新規事業・継続事業		継続事業		
	基本事業	3 文化・芸術に触れる機会の充実					実施計画事業・一般事業		実施計画事業		
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	2092	一般	2	1	16	子ども芸術鑑賞事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H24年度～ 年度		根拠法令 条例等	文化芸術振興基本法					
					事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業		
							任意的事業・義務的事業		任意的事業		
						実施方法		一部委託			
						事業分類		講座・教室・イベント等開催事業			
						リーディングプロジェクト		該当なし			
						市長マニフェスト		該当なし			

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
※市子ども芸術鑑賞事業 児童・生徒に優れた芸術等の鑑賞の機会を提供することにより、青少年の感性を養い、また芸術活動への参加の契機とすることを目的とした事業である。足利市のように毎年2～3回は困難であるが、平成24年度から、市内中学2年生(約千名)全員が無償で鑑賞できるようにした。 その他事業として、次のものがある。 ①文化庁「文化芸術による子どもの育成事業」 ②文化会館のアウトリーチ事業			子ども芸術鑑賞事業:11月27日(木)市文化会館大ホールで、新制作座「泥かぶら」を2回上演し、市内中学校10校の第2学年と関係者(1131名)が無料で鑑賞した。 文化庁事業「文化芸術による子どもの育成事業(芸術家の派遣事業)」:市内2校の小学校で実施した。常盤中学校・常盤小・氷室小(芸術家の派遣事業・クラシック)128名、三好小・戸奈良小204名(巡回公演事業・演劇) 市文化会館のアウトリーチ事業:津軽三味線の出前公演を開催した。平成27年1月29日(木)多田小、閑馬小 1月30日(金)船津川小、山形小 計149名							
			活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			開催回数	回	9	8	13	13	15	
			参加した市立学校数	校	16	19	25	25	27	
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
市立小中学生 * 中学校(10校)2年生を対象とする。			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			市立小中学生	人	9,205	9,075	9,200	9,200	9,200	
			市立中学校のうち2年生	人	984	1,003	1,007	1,007	1,089	
目的 ③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
優れた芸術等の鑑賞の機会を提供し、児童生徒に鑑賞させる。			成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			参加した小中学生	人	1,508	1,612	4,254	4,700	5,085	
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
気軽に文化・芸術に触れられる。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			小中校芸術鑑賞事業への参加者の全児童に占める割合	%	22.0	17.8	45.0	45.0	50.0	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
	国庫支出金	千円						
	県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	3,690	3,240	3,240	3,240	3,240	
	事業費計(A)	千円	3,690	3,240	3,240	3,240	3,240	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			業務委託	3690	業務委託	3,240	業務委託	3,240
	人件費	人	2	2	2	2	2	
	のべ業務時間	時間	23	23	23	23		
	人件費計(B)	千円	89	91	91	91		
	トータルコスト(A)+(B)	千円	3,779	3,331	3,331	3,331		

事務事業名	子ども芸術鑑賞事業	担当部	産業文化部	担当課	文化振興課	担当係	文化振興係
-------	-----------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	20年以上前から県教育委員会が、舞踊、演劇、コンサートの鑑賞機会を提供し、次代を担う青少年の豊かな情操の涵養と芸術活動への参加機運を醸成するために開催している。巡回演劇公演と巡回伝統芸能公演は3年に一度、移動音楽教室は毎年実施していたが、平成24年度から、市内中学2年(約千名)に鑑賞が可能なように再編した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	合併前は、それぞれ各市町の小中学校で、順番を決めて実施をしていた。しかし、県補助の実質的な後退、現在36校という学校数(同規模自治体に対して10校多い)、少子化による児童生徒数の減少など、事業開始の環境とは大きく異なってきている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	本物の音楽・演劇・舞踊に直接ふれる機会があるのは、素晴らしいことだと好評であるが、毎年鑑賞することはできないのか、足利市では以前から毎年全学校で鑑賞事業を実施しており、教育の機会均等の観点からも問題があるのではないかと指摘を受けている。鑑賞を希望する小学校があった。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	財源確保が困難であり、現状維持にとどまった。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案 プロの演劇や演奏を体験することは、感受性の豊かな小中学生が芸術文化環境に接する機会となり、アウトリーチ(学校訪問による直接的なワークショップ)と並んで極めて重要な事業となっており、基本目標の「豊かな心を育む教育・文化づくり」に結びつく。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案 次代を担う子どもたちに、「子ども芸術鑑賞教室」として芸術鑑賞の機会を設けているが、すべての子どもに平等に提供するためには、市で行われなくてはならない。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案 児童・生徒に優れた芸術等の鑑賞の機会を提供することにより、青少年の感性を養い、また芸術活動への参加の契機とすることが目的なので、妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案 文化施設指定管理者へ業務委託しているので、成果向上余地がない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名 *類似事務事業があれば、名称を記入
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案 文化施設指定管理者へ業務委託することで、業務執行の効率化を図った。
公平性 評価	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案 各学校で文化芸術鑑賞事業を行っているが、文化芸術にふれる場と機会の提供は、小中学生の健全育成事業の一環であり、受益者負担の余地はない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 佐野市文化施設指定管理業務の中に組み入れ、「子ども芸術鑑賞教室事業」を指定管理者が実施できるようになれば、終了できる。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。 <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					